

令和3年5月21日（金）

島根県高等学校総合体育大会 壮行式 激励のあいさつ

いよいよ、来週5月27日（木）から前期総体が、また、来月6月3日（木）から後期総体が始まります。この大会は言うまでも無く、高校体育系部活動の総決算とも言うべきもので、上位大会の中国大会や全国インターハイへつながる重要な大会です。また、学校にとっては各チームの獲得ポイントの総合によって、学校の順位が決まる学校対抗戦でもあります。

整列されているみなさんは、それぞれにいろいろな思いを胸に、ここに立っていることと思います。これまでの辛いトレーニング、ライバルに敗れた悔しさ、助けあい、信じ合うことのできた仲間のありがたさなど、思い返しているかもしれません。また、優勝してインターハイ出場をめざすチームもあれば、強豪を相手に自分たちが磨いてきたものがどこまで通用するのか、どこまで力を出せるかを目標にしている選手もいると思います。みなさんのそうした思いが成果につながるように、私たちも応援しております。

ここで、去年のことを思い出してみてください。みなさんの先輩はこの大会が中止となり、やるせない思いをしました。心の整理をつけるのも大変な状況でした。また、現在、東京オリンピック・パラリンピックの開催についても、社会の中では賛否両論、意見が出されています。出場するアスリートの方々の思いも複雑です。今、純粋にスポーツに打ち込むことが難しい状況になっています。当たり前かもしれませんが、スポーツが社会とは無関係ではないということです。

こうした状況の中で、みなさんはこの高校総体に向かうことになりました。大会の準備を進めていただいた先生や競技関係者の方々のご苦勞に感謝すべきことはもちろんですが、あらためて、みなさんにもこの大会に出場する意味、各自がスポーツを追求してきた意味について、考えを整理してほしいと思います。みなさんの活動は社会と無関係ではありません。そして、スポーツが文化であることを自覚し、自分たちの競技・試合だけでなく、審判や競技役員・補助員としての大会運営にも最後まで、きっちり取り組んでもらいたいと思います。

そして、3年生のみなさん。部活動を支えてくださった、ご家族、お父さんやお母さん、保護者の方に、大会出発当日の朝には「行ってきます」という言葉とともに、「これまでありがとう」と一言、感謝の言葉を伝えてください。この総体が終わった時、みなさんが「やりきった」という晴れ晴れした気持ちになっていることを心から願っています。頑張ってください。健闘を祈ります。